

会議結果報告書

1 会議の名称

令和5年度第2回光市子ども・子育て審議会

2 開催日時

令和5年10月30日（月）14時00分から15時30分

3 開催場所

光市総合福祉センター あいぱーく光 1階 いきいきホール

4 出席人数

委員18人中13人出席、事務局11人出席

5 公開・非公開の別

公開

6 会議の議事録（要旨）

（1）開会

（2）会長あいさつ

（3）議事

ア 第2期光市子ども・子育て支援事業計画の令和4年度実績について

配布資料1で説明

【質疑・意見等（要旨）】

（委員）

病児保育がありますが、コロナ禍のため事業を中止しておられたということですが、現在はどうでしょうか。令和5年度は始めておられるでしょうか。

（事務局）

病児保育施設について令和5年度は実施していた事業者の方が事業を廃止しております。今年度につきましては光市内には病児保育施設はない状況です。

（委員）

資料1の1子どものための教育・保育給付の確保の内容、確保の実績値のところ、確保の内容は各園の定員を合計したものと考えてよろしいでしょうか。

（事務局）

確保の内容につきましては令和2年度時点の保育所、幼稚園の利用定員となっております。確保の実績値につきましては令和4年度時点の利用定員数となっております。

（委員）

裏面の（9）延長保育についてですが、量の見込み438人に対して量の実績値が604

人となっていますが、計画冊子74ページの平成30年時点で確保の内容が563人という数字があるうえで、値が下がった状態で計画されているのは何か意味があるのでしょうか。計画冊子作成時の平成30年度が563人に対して、令和2年度の計画の時点から量の見込みは454人と下がった数値になっている理由について確認です。

(事務局)

実際のこども自体が減っているので計画値も比例して減少していくようになっております。

イ 第3期光市子ども・子育て支援事業計画の策定方針について

配布資料2で説明

【質疑・意見等（要旨）】

なし

ウ 市民アンケートについて

配布資料3で説明

【質疑・意見等（要旨）】

(委員)

現在光市の保育所は0、1、2歳の定員がいっぱいでなかなか受けたくても受けられないという状況があります。そのことは光市内の保護者にかかわらず、近隣に住んでいる小さいお子さんを持たれた方にとって多大な影響を与えていると思っているが、このようなことについてアンケートに組み込んでいくことはないのでしょうか。こどもの数が減っていくということは皆様ご理解いただいていると思うのですが、こどもの数が実際減っていても、0、1、2歳が利用率としては伸びているということも、保護者の困っている状況などをアンケートの設問として用意するというお考えはあるのでしょうか。

(事務局)

市内の公立保育所の園児の数等は行政のほうで現在の状況を把握しております。現在来年度の入所募集をかけ、申込を行政のほうで行っており、窓口等でニーズをお聞きする機会を設けております。数が減っているけれど0、1、2歳のニーズが増えていることをアンケートで聞くべきだということですが、光市内の公立私立園長が集まって月1回園長会議を行っておりますが、そういったところでお話をして、保育所の在り方を考えていく必要があると考えております。園長会議で各園の定員をどうするのかなど把握していきたいですし、アンケートの自由記述欄等を見させていただきながら今後の幼稚園や保育所の在り方について検討していきたいと思っております。アンケートの内容で0、1、2歳のニーズについて直接的な設問はございませんが、今後各園等と連携して考えていきたいと思っております。

(委員)

園長会議等で現場の意見等を反映してくださるという受け止め方をしてよろしいでしょうか。

(事務局)

もちろん協議はさせていただきます。ただ市の保育の考え方というのが当然ございますので、こどもが減っているというニーズを踏まえながら、幼稚園や保育所のみならず市の保育サービスの充実などの観点もございまして総合的に考えて、保育所等のご要望をすべて受けられるかはわかりませんが、しっかり意見交換をさせていただき、協議をさせていただければと思います。

(委員)

先ほどのご意見は地域のニーズと申しますか社会のニーズということで、アンケートで読み取れるところはしっかり読み取っていただくということと、最初に昨年度の実績報告にもありましたが、女性の社会進出がいくつかの事業で結果に反映されておりましたのでそのあたりも読み取れるところは読み取って、長期計画ですので計画策定の参考にしていただければと思います。

今回、次期計画の要と申しますか、こども自身のご意見を伺う就学児童の13ページの問35-1は委員にもアドバイスをいただいたところですが、この設問について私自身も小学生が答えるにしては漠然としていてイメージがしにくいのではないかと思いますので、場所であったり機会であったりイメージできるような言葉が入っていればより回答率が高くなるのではないかと感じました。この設問に限らずそれぞれの立場で言い回しや表現等アドバイスがいただければと思います。

(委員)

アンケートについてですが、前回は令和元年でした。計画に基づいて5年ごとにアンケートを毎回行う予定でよろしいでしょうか。

(事務局)

計画策定のたびにアンケートを実施する予定です。

(委員)

対象となる人数が少なくなったので、就学前と就学の保護者の人数が減っているとのことですね。

(事務局)

就学前が6歳までですので6段階、小学校1年から6年までで6段階ございまして、前回、大体一区切りが200人だったところが5年経過して150人になり、今回は全体で600人減らしています。抽出方法は最初はこどもがいるご家庭をすくいあげて、その中で無作為で抽出している形になります。

(委員)

資料3-3に、前回の回収率が就学前40.7%で小学生の保護者39.3%と一般的なアンケートの回収率と比べると低いですか。

(事務局)

設問数が多くなると回答する気分が低下するのではないかとこのところがありますので、今回小学生自身に回答していただく設問を入れたり、こども大綱の観点を入れたりしているが、アンケートと計画の関連性が薄いものを削除して調整しながらボリュームは前回よ

り多少小さくした形で、出来るだけ回答率を高めていこうと現在設問を作っております。

(委員)

制度や状況が変わっていく中でアンケートを作っていくことは大変だったと思います。アンケート自体を見た時に、おそらく子育てで忙しい保護者の方は「今日はやめておこう。また今度にしよう。」と言いながら期限が過ぎてしまうというのがなんとなく見えてくるなと思います。今年度は11月でこのような状態で見られると思いますが、次回はタブレットやパソコン、スマホなどで回答しやすい環境を作り、何か一工夫されると、回答率も上がっていくのではと感じました。小学生の部分は先ほども話しましたが、聞き取り方は難しいだろうなと思います。そういったところもきちんと説明したうえで、答えが導かれる環境を整えて、お子様が持っているタブレット型にされるなど工夫されると、アンケートの回収率もですが、意見が聞けるのではないかと思います。

(事務局)

今、中学生と高校生に企画調整課が開催している市長の対話授業がございます。こちらの事後アンケートで参加した学生から意見を吸い上げることを中学生と高校生には行っております。これは全てタブレットを活用して意見を抽出しております。今回保護者をお願いするアンケートも委員が言われるように、タブレットなどの媒体を使用する方がアンケートに答えてくれるかもしれないので、次回アンケートを実施する際の参考にさせていただきたいと思います。

(委員)

問35-1の自由記述欄をアンケート用紙の裏面にある選択式に変えるということによりよいでしょうか。

(事務局)

その通りでございます。

(委員)

それであれば子どもたちも回答しやすいと思います。もしも記述式にされる場合は最初の問題はいくつかの要素が含まれているので、直感的に答えられるような例えば「地域の人と交流するものにはどんなことがありますか」「地域の人と交流して楽しかったことは何ですか」などと聞かれると答えが返ってくると思います。小学生はコミュニティスクールをどの学校も行っており、地域の方と交流することは小学校1年生から体験していますので、地域の人との交流ということに関して子どもたちは答えることが可能です。ただこちらのアンケートがこんな意見が出たらいいなということに直結するかはわかりませんが、直感的に答えられる内容で聞かれたら子どもたちは十分に答えることができるので大丈夫かと思えます。

(委員)

光市の子どもたちのアンケートをとる内容で詳しく聞かれるのはいいと思います。「光市のことが好きですか」ということで、僕だったら好きとつけます。ですがこのお茶が好きか嫌いだったら僕はどっちでもないかなと思います。両極端で、もし嫌いをつけてしまうと、好きでも嫌いでもないと思っけても、自分で意識づけて「嫌いかもしれない」と思っけてし

まうかもしれないので、間の「どちらでもない」があるといいのではないかと思いました。
「住み続けたいですか」の設問も住み続けたいという方と一回出て戻ってきたいという方もいると思うので、満足度の1～5のような形で、二極化するパターンではなく、間もあればいいのかなと思いました。

(事務局)

アンケートは好きか嫌い、白か黒かのようにはっきりしすぎているので、今言われたことを参考にしてもう一度考えていきたいと思います。

(委員)

「ひかり未来ミーティング」ですが、すでに9月10月に4か所開催されています。私もこれから12月に参加させていただきますが、すでに参加された方に一言ずついただければと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

私は9月29日の島田中学校に行ってまいりました。117人の児童がおられて、まず円になって話し合いをしていましたが、最初は緊張なのか円が広がっていたが、いざディスカッションしようとなった途端にだんだん円が小さくなっていくのがわかって、子どもたちは、キラキラとか楽しいとかそういう言葉を未来の光市に求めているのがわかりました。市長が来られていましたが、子どもたちの声をしっかり聞こうとくださる姿勢が本当にいい機会だと思いました。子どもたちが未来に向けて市長に訴えることと、市長がいま必要としていることを子どもたちから聞こうとする意見交換ができる機会はなかなかないと思うので、いい場をつくってもらっていると感じました。中学校2年生が光市のことについて考えなさいという場がないと考えることがないので、題材として未来の自分たちが住みたい市はどういうものなのかというのを考えだすアイデアがたくさん出てきておもしろかったので、いい時間をいただけたと思いました。

(委員)

私の場合は母校の光井中と光高に行ってきました。チームに分かれて行っていたが、印象に残ったのはとても短いなど、出来れば半日くらい必要だと感じました。話している内容はグループによってカテゴリー分けをされて、それに関しての話し合いということで効率的に意見が出るスタイルになっていました。その中で子どもたちが考えて、私がみた印象ではこうしてほしいという思いを持った子と、授業だからやっていますという子が見受けられました。こうしてほしいという思いとそれが一緒になってしまっているのを、そこをプレゼンというか抽出して第2回、第3回という風にブラッシュアップしていければ、今年のバスケットリングを作ることもありましたが、学生も一緒に光市に携わっていける、意識のある人を作り上げることができる可能性を感じました。ぜひ次年度に続けていっていただいて、どんどん進化した形でミーティングを行ってほしいと思いました。

(委員)

参加された委員の皆様からご意見をいただいて、やはり生の意見を聞くという機会は貴重だと思いますので、この先の予定もごさいますのでぜひ参加いただければと思います。

(委員)

今回の会議の内容で自分が感じたことは、資料2の7ページこども家庭審議会の中で青年期の若者のための取組が一番大切だと感じました。自分が実際、奨学金を借りて大学に進学しているが、安定して奨学金を返済していかないと、これからの人生があるので、奨学金のせいで生活が出来なくなり、自由なことができないのは嫌なので、経済的な支援をしつつ、出会いの場を設けてもらえると、こどもが増えたり、移住者が増えたりするのではないかと思いました。

(事務局)

今、市には色々な計画がありまして、先ほど少しご説明しましたが、総合計画という大きい計画があって、その中で子ども・子育て支援事業計画があり、教育委員会には教育委員会の計画があり、各所管が色々な観点で計画を行っております。そういった中で子ども・子育て支援事業計画の中にも、委員が言われたように経済的な支援も、こどもにとっても中学生、小学生、未就学児にとっても非常に重要な観点だと思っておりますので、今後計画作りにあたっては経済的な支援も十分に踏まえながら策定していきたいと思っております。今後の会議でも若者としての意見をいただければと思います。

(委員)

アンケートですが、予定通り11月に実施ということで、今日いただいたご意見を踏まえて完成して実行という流れでよろしいでしょうか。

(事務局)

今日いただいたご意見を検討させていただいて、内部決裁が取れ次第アンケートは予定としては11月の下旬から12月の中旬にかけて実施したいと思っております。集計は業者委託をしておりますので、そのあたりも踏まえて3月末頃までには報告書の作成まで行いたいと思っております。

(委員)

以上で、本日予定の議事はすべて終了しました。ご協力ありがとうございました。それでは、進行を事務局と交代します。

(4) その他

「市長と語ろう！ひかり未来ミーティング」の見学案内
市後援イベント案内

7 閉会